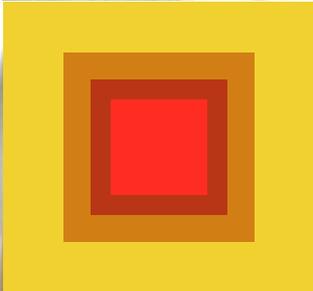


千葉明德短期大学 MAGAZINE 『月歩学歩』 2017年8-9月号

いい顔で迎えた
忙しい夏休み
後期に託した
前向き望みあり





8-9月号の内容

- ❖ 学園祭を終えて 3
- ❖ 学生編集委員 自主企画と参加者の声 7
- ❖ 先輩たちの今 9
- ❖ スペインとの交流 10
- ❖ 2年生めいとくはうたう 11
- ❖ 1年生教養基礎演習の講演会 13
- ❖ 2年生保育実習Ⅲを終えて 15
- ❖ 1年生乳児保育ボランティアに向けて 15

■表紙

「あそぼうかー」 土粘土であそぼう
(千葉県内の幼稚園) 力の限界に挑む5歳児

■編集

深谷ベルタ、久保瑤子

学園祭を 終えて

久保 瑤子

8月6日（日）に千葉明德短期大学の学園祭「めいとく広場」が開催されました。今年のテーマは「笑顔満祭～みんなが主役の明德祭～」。少ない準備期間の中でしたが、最高のチームワークで準備を行い、当日はたくさんの方にお越しいただいて大盛況の一日でした。

思い出せば、学園祭の1か月前。今年の学園祭を開催するのか、しないのかすら決まっていない状況でした。1,2年生共に、実習や試験などでそれだけでなく忙しい中、時間だけがどんどん過ぎていきました。…『今から準備しても、中途半端な学園祭になってしまうのではないか』…『でも、このまま学園祭をやらずに終わってしまってもいいんだろうか？』…みなさんの頭の中では様々な葛藤が起きていたと思います。しかし、たくさんの葛藤とたたかう中で、みなさんはとても大切なことに気付きました。それは、「時間がない」、「人手が足りない」ことを嘆くよりも、「今ある時間とメンバーで最大限のものを作り上げるためには、どうすればいいのか」を考える、という発想の転換です。

学園祭を開催することが決まってからの団結力と準備のスピードは凄まじいものでした。もしあのとき、学園祭を「やらない」という選択肢を選んでいたら、今私たちの心の中には何も残っていないでしょう。しかし、実行委員長をはじめ、委員のみなさんが「やる」と決断してくれ

たからこそ、今私たちの心にはこんなに素敵な思い出といろいろな思いが溢れています。みなさんと一緒に、今年の学園祭を創り上げて思うのは、これからの人生において、「やる」のか「やらない」のかの選択肢を迫られたときには、必ず「やる」という道を選びたいということです。

最後に。学園祭を開催する上で、多くの方々のご協力を賜りましたことを、この場をお借りして深く御礼申し上げます。また、普段からお世話になっております「まあい広場」と「ときわぎ公舎」、「みらい工房」、「はあもにい」の皆さま、「わくわく体験研修」でお世話になっている富山県南砺市利賀村の方々、今年も出店していただき、本当にありがとうございました。

以下、今年の学園祭を中心となって盛り上げてくれた実行委員と学生生活支援委員の教員からの一言です。

学園祭実行委員からの一言

♥ 学園祭に足を運んで下さった皆様、ありがとうございました。学園祭を楽しんでいただけたらとても嬉しいです。実行委員長を経験して感じたことは、**沢山の人に支えられている**ということです。

学園祭に関わっている先生方、他の委員、学生、地域の方々、本当に色々な人に支えられて成り立っていると学園祭を通じて思いました。本当に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

実行委員長 亀井湧介

♥ 「楽しかった」「辛かった」「ありがとう」
様々な想いを持った人がいました。私は学園祭ま
での忙しい毎日が、そして学園祭が楽しかったです。
当日は沢山の笑顔を見ることができました。**とって
も幸せで心がぎゅうってしました。**実行委員の皆は
たくさんたくさん悩んで考えてくれました。有志団
体の皆は学園祭の楽しみを作ってくれました。みん
な最高です。振り返りというか皆への想いですね！
(笑) この場を借りて言います。ありがとうございました！！
実行副委員長 山本明日香

♥ 沢山悩んで、いっぱいいっぱいになって、苦し
くて仕方がない二ヶ月でした。それでも学園祭は
諦めたくなくて、とにかく前だけ見て突き進んで来
た、あつという間の七月でした。終えた時に想像し
ていた感想は、達成感とか満足感とかそんな綺麗
なものだったけれど、終えた今残っているのは、”
あー、学園祭やって良かったなあ”もう、この一言
です。これ以上の感想はありません。当日来てくれ
た子どもたち、学生、地域の方々、沢山の人たち
の笑顔を見て生まれたのは、ああ、やって良かった。
本当にこの一言でした。諦めなくてよかった。
辛いことも沢山あった学園祭準備だったけれど、
確かに、自分の成長に繋がる事があったと思って
います。きっと生涯を通して語れる、私にとって、
とても大切な人生の1ページとなりました！先生
方、学生、実行委員、子どもたち、地域の方々、
全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです！本当に、
本当に本当にありがとうございました！

学友会会長 飯田琴乃

♥ 今年の学園祭は準備期間も短く、本当にドタバ
タした感じになりましたが、私は今達成感と、楽し
かった思い出でいっぱいです。

実行委員も少なく、一人一人の負担も多い中の学
園祭でしたが、少ないからこそみんなで力を合わ
せて情報を共有し、一致団結して頑張れたと思いま
す。**少ないなら少ないなりのメリットもある**という
事を知りました。学園祭を開催できたおかげで、
授業のない先生方、また出し物を一緒にやったゼ
ミの仲間や、一年生との仲が深まりとても嬉し
かったです。

最後の学校生活で、責任を持って友達と何かを作り、
成功させることが出来た思い出は忘れないだろ
うし、自分の自信にも繋がりました。

一年生には今年出た沢山の反省点を来年に活かして
ほしいと思います。また、学園祭が楽しかったと思

てくれていたら嬉しいです。ありがとうございました。
飲食委員長 小柳葉月

♥ 環境委員はステージ関係、有志団体の教室割
り、ゴミ箱作りなどを行いました。人数が少なく
準備をするのが大変でしたが、委員長をはじめと
する学園祭実行委員の皆さんや、先生方が協力して
下さったおかげで当日を迎える事が出来ました。
当日はドタバタして大変でしたが、皆さんの協力で
終えられました。**大変な事もあったけれど楽しい
学園祭が出来たので良かったです。**

環境委員長 森笑里

♥ みなさん学園祭お疲れ様でした。今年の実行
委員長と学友会会長が本部を結成し、学友会は広
報委員として動きました。去年の学友会の役割は各
委員のサポートで、何をどのようにサポートしたら
良いのか分かりませんでした。今年広報として
仕事を振り分けていただいたおかげで、**みんなと
学園祭を作り上げる一体感**を味わうことが出来、
嬉しかったです。

パンフレットの作成では、各有志団体の方にPR
用紙を描いてもらい、カラー印刷にするなど、と
ても見やすく可愛く分かりやすいデザインを学生み
んなの手で作ることが出来ました。

今年の学園祭準備はとても短い期間でしたが、学
生達が協力し合い素敵な学園祭を作り上げるこ
う出来ました。今回広報としての反省点が多くあり
ますが、この反省を来年に活かせたらと思います。

広報委員長 川名あゆ美

♥ 施設委員として施設の方へ連絡を取ったり、事
前訪問として施設へ実際に行く事もしました。当日
は一緒に施設の方に案内したりと、コミュニケーション
も取れました。このような機会はなかなか無い
ので**経験できて良かった**です。

施設委員長 飯田望友

♥ 今回の学園祭では、一年生ですが貸出借用委
員会の委員長を務めさせていただきました。初めて
の大学の実行委員会で分からない事も多く、先輩
方や先生などに沢山助けをもらいながら、ダスキ
ンの注文や学校備品の収集や貸出など無事にやり
遂げることが出来ました。来年度は、自分たちが
主体となって学園祭をやっていくと思うと不安もあ
りますが、**今年の経験を来年に繋げていきたい**
と思います。 貸出借用委員長 伊藤元気

♥ 去年は3人での活動でしたが、今年は2人ということでもとても不安の気持ちを抱いていました。しかし、1年生の林春美さんが率先して動いてくれ、協力して進めることができました。私は去年も学園祭実行委員の会計係を務めました。反省がたくさんありました。その反省を出しながら進めることで去年よりも速やかに会計処理を終えることができました。今年は**団結力が高まった良い学園祭だった**と思います。 会計委員長 石川里佳

♥ 学生生活支援委員の教員からの一言

今年のテーマは、「笑顔満祭～みんなが主役の明德祭～」でした。2年生の誰かが、「やりたいことを実現できるのが、明德の学園祭」といった意味のことを言っていたのが、印象に残っています。時間も人数も限られる中、つらくなることもあったでしょう。けれども、それでも最後まで投げ出さなかったから、テーマにも掲げた“笑顔あふれる学園祭”が実現しました。そんなすてきな力を持つ皆さんに、心から敬意を表します。本当にお疲れさまでした。そして、楽しい時間をありがとうございました。 教員 高森智子

♥ 今年の学園祭は本番3週間前に本格的にスタートしました。正直、実行前は「今年の学園祭、大丈夫かな～」と気になったものの、亀ちゃん中心に実行委員の学生の皆さん、本当にご苦労様！

当日は天候に恵まれ、また、大勢の来校者、良かったね。準備、運営はもちろん、終了後の後片付けは手際良く早かったです。私は学生の皆さんの企画力と行動力に“感心”しました。この体験は皆さんの貴重な財産です。教員 佐藤隆司

♥ とにかく無我夢中で、みなさんと一緒に走り抜けた学園祭でした。学園祭に向けて、準備しなければならぬことは山積みで、毎日遅くまでみなさんと打ち合わせをしながら、「果たして間に合うのだろうか」と私自身がおろおろしてしまうこともありました。しかし、本部の亀井くん、山本さん、飯田さんをはじめ、実行委員のチームワークは抜群で、毎日着実に準備を進めてくれましたね。私が何より嬉しかったのは、学園祭を通じて、みなさん一人ひとりと色々なお話ができたことです。壁にぶつかって一緒に悩んだり、疲労のピークで笑いが止まらなくなったり、深い話、たわいもない話も含めて、たくさんお話できたことで、私はみなさんとの仲が深まったと思っています。とにかく最高の学園祭でした。忘れられない、最高の思い出をありがとう！このメンバーで学園祭を作り上げることができて、心からよかったですと思っています。思い出だけで、また涙が…。 教員 久保瑤子







学生編集委員が4名に！

学生の自主企画と参加者の声

皆さん、こんにちは！月歩学歩委員に入りました1年の秋葉麗奈です。最初から入りたいと思っていたのですが、募集がかかっていないのに気づき、なくなってしまったと思っていました。しかし、先輩や友達に話をすると、まだ募集していると話してくださいました。私もやりたかったので、歓迎されてとても嬉しかったです！これから皆さんの思ったこと・感じたことを月歩学歩委員としてお伝えしていけたらと思います！また、メンバーや先生方と一緒に頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします！

♥ 8月24日（木）に、「学生企画」として、親子で参加できるイベント『新聞紙あそび・写真立てづくり』が行われました。この企画は、「たいむ」にいらっしゃった保護者の方々から、「子どもが伸び伸び走り回れるような遊びをしたい」という声があったのがきっかけで始まりました。学生が直接子どもたちや保護者の方々に関わることで、将来現場でその経験を生かすことが出来る点が、学生企画の良いところだと思います。

そして今回参加した1年生の学生からは、このような機会は保護者の方々の中で子どもたちと関わる時にどう接するとよいのかを考えられる貴重な経験なので、是非他の学生の皆さんにも参加して頂きたいという声を頂きました。

♥ 先日の8月24日にたいむに来る親子を対象に学生が主体となってイベントを開催させて頂きました。企画の立案から、場所の確保、広告ポスターの作成、開催当日の司会、運営と何から何まで自分達で行うという事で楽しみであると同時に不安も半分。企画としては新聞紙遊びと工作の二つにしました。新聞紙遊びは授業でやったことを参考に。新聞紙を破いて雪を降らしたり、細長く丸めて剣を作ったり、丸めてボールを作ってみたり、一人が新聞紙の上に乗ってそれを引っ張って雪車にしたりと、色々な工夫をして遊びました。子どもたちは普段出来ない事が出来て、とても興奮している子が多い印象を受けました。

工作では写真立てを作りました。自分ではさみを使って紙を切って、のりで貼って、好きな絵を描いて、と思い思いの作品が出来上がっていました。終わってみると、段取りが悪かったな、準備が足りなかったな、色々な状況を想定する必要があるなと反省点がたくさん出てきました。しかし、子どもたちの楽しそうな顔を思い出すと、やって良かったなと思いました。次の機会には準備からもっと時間をかけて、何が起きても対応出来るようにしていきたいと思います。

たいむの本田さんにはこのような機会を設けてお手伝いまでして頂き、ありがとうございました。保護者の方と子どもたちには迷惑をかけてしまうこともありましたが、「楽しかった」と言って頂き、学生一同とても励みになりました。次も頑張りますのでよろしくお願ひします！
一年 佐野雄太

♥ 初めてのたいむのボランティアでは、自分たちで遊びを企画し、実践するというのをやらせていただきました。新聞紙を使った遊びでは、破いたり、新聞紙のプールに埋もれて見たりと、子どもたちは生き生きとしてとても楽しそうでした。製作では、好きな絵を描いたり、花やミッキーなどの型抜きを貼ってオリジナルの写真入れを作っていました。

初めてということもあり、スムーズに進行出来なかったりと反省点が多く見つかりました。保護者の方や本田さんのサポートのおかげで有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回の体験は後々の部分実習でも活かせるのではないかと思います。
一年 相沢七海





先輩たちの 今

伊藤 恵里子

8月6日、学園祭の日に、第46回卒業生の「ホームカミングデー」が行われ、30名弱の方々が集まってくださいました。卒業して半年経っていないものの、日々責任あるお仕事をしているからでしょうか、顔つきが大人になったように感じました。会の中では、一人ひとりに現在のお仕事の状況やそれに対する思いを話していただきましたが、大変さの中にも楽しさややりがいを感じ、目の前の子どもや利用者へ真剣に向き合っている姿を想像することができ、とても感動しました！ 私もがんばらなくては…とも思わされましたよ。

いまは、卒業生と教員という関係よりも、まさに保育を創る仲間なんだと思います。保育・福祉の現場が良くなるように、共に協働していきたいと思いました。



スペインと の交流 田中 葵

～スペインからの学生を迎えて～

2年生の教養基礎科目の一つであるフィールドワーク・スペイン（通称「わくわくスペイン」）は、カンタブリア州サンタンデルにあるアタウルフォ・アルヘンタ音楽院の生徒の家にホームステイをしながら、スペインの文化を学びます。

そしてこの「わくわくスペイン」は、私たちがスペインを訪れるだけではなく、その音楽院の生徒と教員を日本に招くという相互交流プロジェクトを行っています。4年目となる今年は、7月23日から8月1日まで、スペインから教員1名と生徒6名をお迎えしました。

私たちがスペインでホームステイをするのと同様に、スペインの方たちは日本の家にホームステイをします。今年は、在学生の伊藤都さん、江野澤寿々花さん、河野真夕さん、佐藤ちひろさん、渡辺裕香・茜さん、昨年「わくわくスペイン」に参加した卒業生・山田眞知子さんの家に一人ずつ泊まりました。これが、この相互交流の大きな魅力の一つとなっています。

滞在期間中は、東京観光に加え、明德土気保育園での交流会、明石・田中ゼミとの合同

授業、学内コンサート「めいとくはうたう」への参加、東京にあるセルバンテス文化センターでのコンサート開催と、濃密なスケジュールを過ごしました。スペインの先生から発せられた、「建物や食べ物など様々な違いがあるけれど、人として通じることがたくさんあった」という言葉が印象的でした。

明德土気保育園の皆様、ホームステイを受け入れてくださったご家族を始め、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

9月7日から15日には、明德の学生8名と教員2名がスペインを訪れました。このご報告もまたお楽しみに！





2年生 めいとくは うたう 久保 瑤子

例年、1、2年生と教職員で行っている「めいとくはうたう」ですが、今年の7月28日（金）に行われた「めいとくはうたう」は、いつもと一味違いました。なんと今年は、2年生の「フィールドワーク（スペインの文化に触れて）」の相互交流で来日していた、スペイン・サンタンデルのアタウルフオ・アルヘンタ音楽院の皆さんと先生をお招きして、両国の学生と教員による音楽交流会という形で開催されました。

明德の2年生は「音楽表現演習Ⅲ」のクラスごと、日本の「わらべうた」や「ドレミの歌」、ディズニーやジブリの名曲等を演奏しました。手まり唄である「あんたがたどこさ」の演奏では、実際にまりつきをしながら演奏をするなど、「耳」だけでなく、「目」でも楽しめるような工夫がたくさん詰まっていました。また、本校の非常勤講師としてご指導くださっている木村記子先生（バスクラリネット）と曾我桂子先生（ピアノ）によるジャズ・クラシックの演奏も大変迫力があって素晴らしいものでした。

また、スペインの学生の皆さんには、ピアノ、フルート、ヴァイオリン、クラリネットを演奏していただきました。音楽院の学生さんの演奏は、重低音の迫力や繊細な音色がとても響いており、聞き入ってしまいました。また、演奏の他にもスペイン語による詩の朗読やスペインの広大な風景の映像を見せてくださったりと、様々なスペインに触れることができました。教員の

Lara先生には、世界初演となる「サラバンド」という曲を演奏していただき、とても貴重な機会に立ち会うことができたことを心より感謝申し上げます。

今年の「めいとくはうたう」は、両国の学生と教員が国境を越えて、音楽を通じて心を通わせることのできる素敵な時間になりました。

● めいとくはうたうに参加させていただきました。

素敵なピアノの伴奏に合わせてハンドベルの合奏はとても綺麗で聴いていて心地いい気分になりました。ドレミの歌は参加型で皆で手拍子をしながらかえたので楽しかったです。わらべうたは小さい頃馴染みのある曲だったので合唱として聴くと綺麗な響きでした。

また、スペイン人の演奏は本格的で、夢中になって聴いていました。息を合わせたピアノの連弾、透き通るようなフルートやクラリネットの演奏、可憐なバイオリンの演奏、どれも素晴らしくて感動しました。

国は違えど音楽で繋がる楽しさを感じられたので、とても良い機会になりました。

一年 高橋 愛実

「めいとくはうたう」に参加させていただいて、私は国境や言語を越えて生まれる交流というのを改めて目にしました。まず、先輩方の演奏ではハンドベルや様々な楽器を使って、ジブリ曲や日本のわらべ歌を披露していました。その姿を見て、とても素敵だと思いました。自分も来年はその場に立つのかと、気が引き締まる思いでした。

スペインの方々の演奏では、自分にも楽器経験があり、今回登場した楽器も見知っていたのですが、その何倍も素敵な音色で、つい前のめりで聴いていました。

その後の先生のバスクラリネットもとても迫力があり、自分まで楽器が吹きたいという気持ちになりました。

こんな機会は滅多にないと思うので、とても有意義な時間を過ごせました。

一年 高島 成実

今までとは違う「めいとくはうたう」雰囲気緊張しました。それと同時に自分の行う合奏や他の人の発表はどんなものなんだろうと楽しみにしていました。特に一番楽しみにしていたのはやはりスペインの方の演奏です。とにかくすごかったなあ！という思いです。

どの演奏者の方も音楽に対してすごく深い気持ちが伝わってきて感動しました。私はあんな風にちゃんと演奏を聴くことは初めてだったので、こんなにきれいなんだ。こんなに真剣に音楽に向き合う人がいるんだと思いました。短い時間ではありましたがとてもいい時間を過ごすことが出来ました。

私は他の学生7人と9月にスペインに行きます。

その時にもたくさんのものを見たり聞いたりして心に残して、日本に帰ってきてから生かしていけたらいいなと思います。

二年 高橋 彩香

初めて授業として前に出させていただきました。私のクラスは日本ならではの「わらべ歌」を披露しましたが、スペインから来ていただいた方々もいる中でとても緊張しました。ですが、リハーサルを重ね、本番は楽しく歌うことができ、スペインの方々にも日本の歌を知ってもらえて嬉しかったです。また、今回はスペインからたくさんの方が演奏に来て下さり、とても印象に残るコンサートになりました。フルートやヴァイオリン、ピアノとなかなか聴くことのできない楽器の演奏で、一生懸命伝えようと演奏して下さっていた皆さんの姿がすごく素敵でした。自分も音楽を楽しみながらも貴重な演奏を聴くことができ、とても思い出に残る「めいとくはうたう」でした。

二年 武田有結

私は合奏でお互い助け合いながら練習をし、「今の良かったね！」などと言い、とても良い経験でした。そして、スペインの方々の演奏では、真剣に演奏されている姿を見ました。私たちは、保育に真剣に向き合っています。同世代の方々が何かに真剣に向き合っている姿を見て、また自分も頑張ろうと思うことができました。言葉は確かになかなか通じませんでした。しかし、音楽を通して通じるものもあり、とても良い交流の機会だと感じました。

二年 山本明日香





1年生 教養基礎演 習の講演会

明石 現

月歩学歩7月号でもお伝えしましたが、一年生前期の教養基礎演習（担当：金子重紀、鶴田真二、明石現）では、「学ぶ楽しさを知る」「他者に目を向けることを通して、自身の関心の世界を拡げる」ことを到達目標としています。第1回目の講演会では、弁護士の辻慎也氏とクルドの子どもたちにご来校いただきました。そして第2回目の講演会として7月5日（水）に、ろう者で俳優の井崎哲也氏（トット文化館、日本ろう者劇団顧問）がゲスト・スピーカーとしてお越しくださいました。

当日は井崎先生から、ろう者の方々が日常生活で困ることや、私たちには気付きづらい事例を教えてくださいたり、手話、口話、空書などを楽しい雰囲気の中で、手話通訳の方を介してご指導いただきました。先生の全身を使った表現、豊かな表情等により、学生の皆さんが集中して講演に参加している姿が印象的でした。

以下、講演当日に学生の皆さんが書いた感想を抜粋でご紹介します。

○ 今回、手話や空書、表情等、さまざまなことを学び、とても素敵な時間でした。先生の表情と手話をみていると一つひとつの単語、

表情が丁寧で、伝えようとしている思いが分かりました。私たちは口にしては良くない言葉などを簡単に言ってしまうことができるので、これからは一つひとつの言葉の大切さを心にとどめ、嫌な気持ちを感じないような言葉を選びたいと思いました。

○ 口話よりも空書の方が難しいのではと思っていたけれど、全くそのようなことはなく、理解でき、相手にも理解してもらえたので安心しました。ですが、漢字は難しいと感じました。私は「青」と書いたのですが、なかなか理解してもらえなかったです。空書の時は、どこから始まっているのか、どこで切れているのかが分からないと感じました。

○ 最後に先生が95%の人があまりコミュニケーションをとりたがらなくても、残りの5%の人たちが身振り手振りを使ってコミュニケーションをとってほしいというような言い方をされていたので、私もその5%に入って、駅などで困っているろう者の方を見かけたときは積極的に教えてあげたいと改めて思いました。優しい、素直な心を持って接していきたいと思いました。

- 井崎先生の講演を聞いてとても感動しました。聴覚障害というハンディキャップがありながらも、井崎先生からはそれを感じられず、それを逆に糧として様々な挑戦をしていることがとても印象に残り、輝いて見えました。手話に対して興味が深まりました。この貴重な機会を大切にしていきたいと感じました。
- 私たちは耳が聞こえる分、あまり集中して相手を見なかったり、耳だけ聞いていて他のことをやったりしてしまいます。だから聞き流すことだってあるし、聞いてそうで聞いてないこともよくあると思います。でも、ろう者の方は目が頼りだから私たちより人の話をしっかり聞いてくれるし、

私たちよりちゃんとしたコミュニケーションをとれるような気がしました。

この他にもご紹介したい感想がたくさんあります。素敵な人と出会うことにより、学生の皆さんの心が目に見えるように揺さぶられていることを強く感じた一日でした。

今後、前期の教養基礎演習での学びが、後期の教養総合演習につながります。担当教員の一人として、一年生の皆さんと共に創りあげる当授業を後期も楽しみにしています。



2年生 保育実習Ⅲ を終えて

佐藤 隆司

保育実習Ⅲは短大生活最後（総まとめ）の実習です。学生の皆さんは、どんな“想い”で実習に取り組まれたのでしょうか？

実習の際、指導者側の期待するところは、学生の皆さん一人一人「どんな目的を持って実習に取り組もうとしているのか？」と、実習後「目的は達成されたのか、達成が難しかったのであれば、それはどんなことが原因で達成できなかったのか？」と自問自答する振り返りです。

慣れない環境、話したことのない人とのやり取りなどなど、不安・心配は付き物です（そして誰でも感じることです）。短大の2年間は慌ただしく、一言「大変」と実感します。しかし「私は」を見失うことなく実習に取り組むことは自己成長に結び付くこととなります。

良くも悪くも実習中の経験は学生の皆さんを「豊」にするものです。実習中の経験を社会人生活の“糧”とし、一層の飛躍を期待します。

1年生 乳児保育 ボランティア に向けて 池谷 潤子

1年生は9月21日には県内の保育所（園）で3歳児未満児と初めて関わる機会を頂きます。

そこで、前期に学んできた乳児保育などの知識を、実際の保育現場で子どもたちや保育者の方々との関わりの中かで学びます。

今回、ボランティアを受け入れて頂くのは、来年の1、2月に保育実習で2週間お世話になる園ですので、いまの子どもたちの姿をしっかりと目に焼き付けておくことで、半年後の実習での学びをさらに深めることとなります。

保育ボランティアで自分の課題を見つけ、後期の学びに繋げて行って欲しいと思います

